

立川市商連

街おごしに
国産レモン

立川をレモンの街に……。立川市内の28商店街が加入する立川市商店街連合会(市商連)が、国産レモンで街おごしを旨指す「立川レモンプロジェクト」を始めた。安全、安心な国産レモンを使ったメニューを提供する飲食店を増やすという。将来は市内での収穫を目指しており、市商連の石井事務局長は「レモンといえば立川」と言われるようにしたい」と意気込んでいる。

飲食店メニューに■収穫目指す

プロジェクトでは、試行15、6軒が協力する。来年として立川市内の飲食店1夏までに、国産レモンを使

ったメニューを開発する予定だ。

国内で販売されるレモンは現在、大半が輸入物。しかし近年は、防かび剤などが使われていない国産に人気が集まりつつある。香りの成分が多く含まれる皮を安心して食材に用いることができるためだという。

市商連は、この人気に着目した。石井事務局長は、協力する飲食店を増やし、製菓店などにも広げたい」と



植樹されたレモンの苗。気温などを測定するセンサーも設置された(立川市で)

話す。

＊

市商連はさらに、立川でのレモン栽培を軌道に乗せたいと考えている。立川産のレモンを収穫して店に提供し、メニューに取り入れたいという構想を描く。

実現に向け、援軍も得た。レモン栽培が盛んな広島県呉市の農家らでつくる「としま柑橘倶楽部」だ。倶

楽部から早速、苗木の提供を受け、今月17日には、立川市西砂町の農園で「瀬戸内 広島レモン」の記念植樹を行った。

苗木の近くには、気温や土壌の水分などを測定できるセンサーも設置した。あらゆるものがインターネットでつながるIoTの技術を活用し、データを常時、倶楽部に送信する。呉市の農家から、温度や土壌の水

分などで助言を受け、2年後の収穫を目指す。

レモンは温暖な気候を好み、現時点では立川での生育は難しいとみられている。それでも、倶楽部の奥利宏代表理事は「比較的寒い地域での試験栽培が成功すると、色々なところで栽培ができるようになり、地方の活性化につながる」と期待を寄せている。